

事務事業名		コード	4700	バス路線維持対策事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	企画政策課	担当班	企画調整班	
施策体系	基本施策	22	公共交通網の整備		根拠法令	府馬線運行協定書、旭～銚子線運行協定書	一般	2	1	10	事業種別	☒	主な事業	
	施策の展開	41	公共交通の確保		戦略事業	198	バス路線維持対策事業					☐	国土強靱化地域計画	
	施策の展開				戦略事業							☒	新市建設計画	
												☒	定住自立圏構想	
												☐	主要事業	

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返	平成 11 年度～	千葉交通圏が運行している路線バス(府馬線、旭～銚子線)について、路線を維持させることで地域住民の利便性を確保するため、経常損失額に対して補助を行う。	
	☐ 開始年度不詳	※補助については経常損失額の2分の1を路線経路上の関係市(香取市、銚子市、旭市)で負担する。	
	期間限定複数年度	【府馬線】○小見川駅～府馬～旭駅…旭:50.26% 香取市:49.74% ○小見川駅～府馬～旭農高…旭:51.76% 香取市:48.24% ○小見川駅～府馬～旭中央病院…旭:53.06% 香取市:46.94%	
平成 年度～		【旭～銚子線】○陣屋町～イオン銚子～飯岡～旭駅…旭:47.67% 銚子市:52.33% ○陣屋町～イオン銚子～飯岡～旭中央病院～旭駅…旭:48.65% 銚子市:51.35% ○東芝町～イオン銚子～飯岡～旭中央病院～旭駅…旭:50.29% 銚子市:49.71% ○陣屋町～イオン銚子～飯岡…旭:17.94% 銚子市:82.06% ○銚子駅～イオン銚子～飯岡…旭:19.55% 銚子市:80.45% ○東芝町～イオン銚子～旭農高…旭:47.77% 銚子市:52.23%	
平成 年度まで			
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
平成14年の道路運送法の改正に伴い、本路線についても不採算路線との理由から退出の申し出があった。千葉県バス対策協議会との協議の結果、「生活路線として必要不可欠であるため、関係市の補助を受け運行を維持する。」とされた。		府馬線については利用者が減少してきているが、旭～銚子線においては銚子イオンへの乗り入れ、銚子市の中学校の統廃合による新たな需要が生じたため、利用者が増えた。生活交通として必要不可欠ではあるが、今後も人口減少により利用者は減少すると推測される。	
		⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
		銚子市の学校統廃合により、通学にも使われている路線から必要不可欠である。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(30年度の決算)		単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(予算)
1.負担金補助及び交付金	6,457	千円	5,138	5,759	6,202	6,457	6,734
② 特定財源の内訳(30年度の決算)		単位:千円					
1.国庫支出金	0	千円					
2.都道府県支出金	0	千円					
3.地方債	0	千円					
4.その他	0	千円					
		事業費計 (A)	5,138	5,759	6,202	6,457	6,734
		1. 国庫支出金					
		2. 都道府県支出金					
		3. 地方債					
		4. その他					
		5. 一般財源	5,138	5,759	6,202	6,457	6,734

前年度増減理由	利用者は増加したが、燃料費の上昇により運行経費が増大したため、補助金額が増額となった。
---------	---

従事職員数	常時 1 人	最大 1 人 × 5 日 = 延べ 5 人
-------	--------	-----------------------

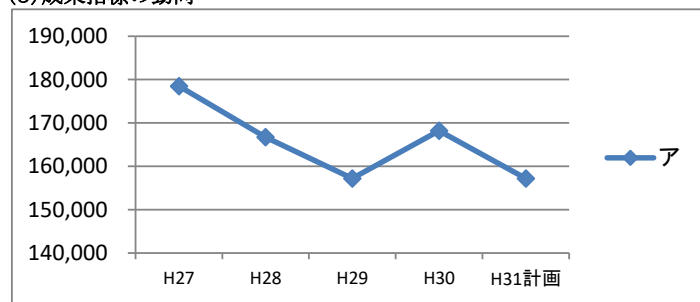
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	30年度実績(30年度に行った主な活動)	ア 1日当たりの便数(土・日曜日、祝日)	便	36(26)	36(26)	36(26)	36(26)	36(26)
	補助金交付	イ 停留所数	箇所	92	92	92	92	92
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	対象 市民	ア 年間利用者数	人	178,509	166,748	157,207	168,199	157,207
	意図 移動手段を確保することにより生活の活域が広がる。	イ						

(4) 事務事業優先度評価の結果

①成果優先度評価結果				②コスト削減優先度評価結果					
		成果向上余地			コスト比率				
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位1/3	中位1/3	上位1/3		
施策貢献度	大きい	①			評価結果	①	(1)		
	普通					②			
						③			
						④⑤			
小さい				⑥					
				⑦⑧					
				⑨					

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難				
	【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上	☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	比較
	【コメント】(低下の場合、その理由)	成果指標イ			☐ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	成果動向
	③ 今年度取組事項(31年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容	今後の方向性	☐ 拡大 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他()
		H31.4～R2.3	路線バスの利便性の高い運行について、引き続き研究を行う他、総合公共交通マップを作成し、運行情報を市民に広く周知し、利用促進を図る。	H31.4～R2.3		路線バスの運行について研究を引き続き行い、交通機関の乗り継ぎを円滑に行えるよう利便性の向上を図る。